

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-019421
(43)Date of publication of application : 23.01.1996

(51)Int.Cl. A45D 40/00
A45D 40/06

(21) Application number : 06-179658

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD
HIDAN:KK

(22) Date of filing : 08.07.1994

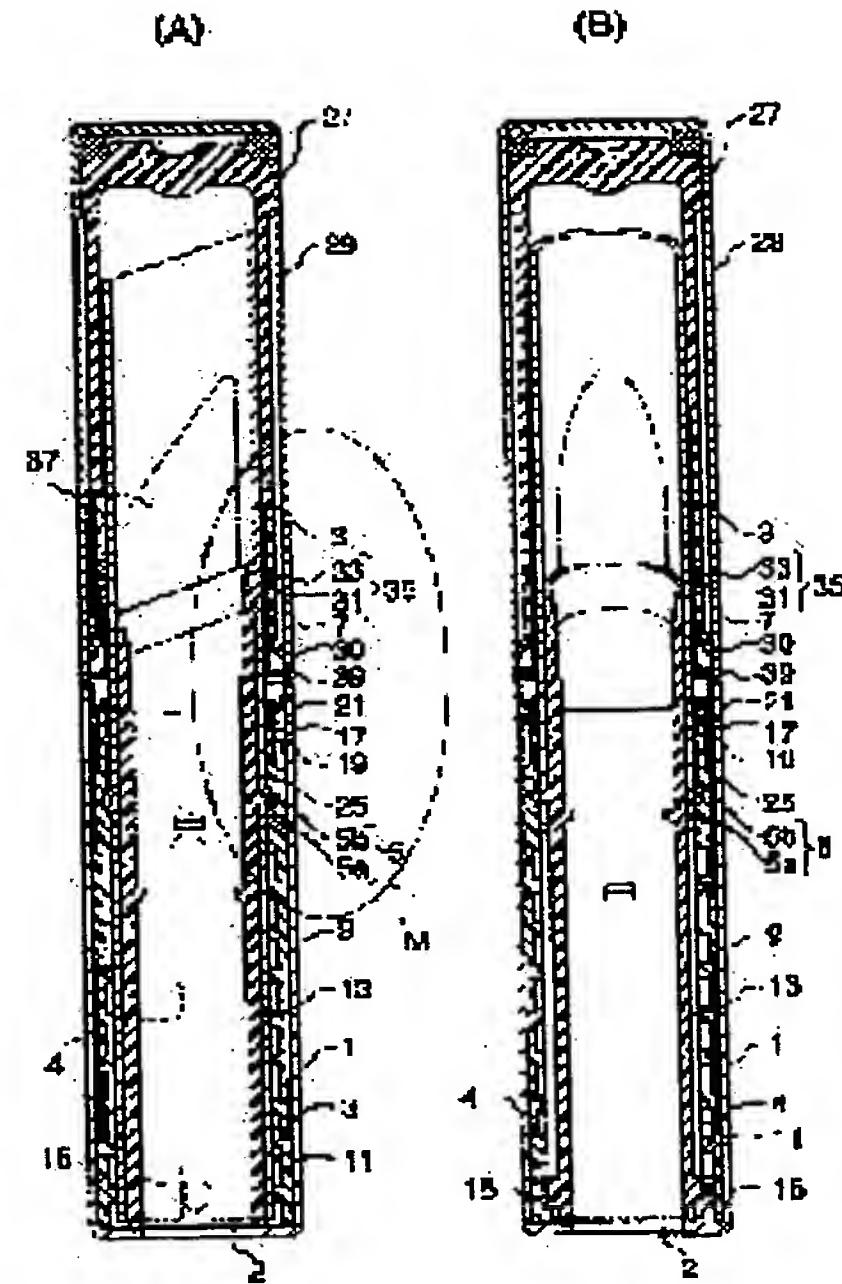
(72)Inventor : INOUE TAKASHI
IWABORI TAKEO
ITO KENICHI

(54) PACKING TYPE BAR-SHAPED COSMETIC CONTAINER

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the air-tightness of a packing type bar-shaped cosmetic container formed by using a straight pipe as a main body and to assure good and stable extending and retracting.

CONSTITUTION: An upper part 17 of an outside cylindrical body 9 is formed to a bore of a large diameter and an outside shape of a small diameter. The inner peripheral surface of this upper part 17 is provided an annular rib 19 and this rib 19 comes into sliding contact with the outer peripheral surface of the main body 3. The outer cylindrical body and an internal means are brought into elastic contact with each other across the rib and further, an inner cap mounted within a cap and the upper part is attachably and detachably and airtightly fitted.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

15.05.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-19421

(43) 公開日 平成8年(1996)1月23日

(51) Int.Cl.⁶

A 45 D 40/00
40/06

識別記号

庁内整理番号

G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数18 FD (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平6-179658

(22) 出願日 平成6年(1994)7月8日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(71) 出願人 000153926

株式会社ヒダン

千葉県柏市花野井627番地

(72) 発明者 井上 隆

神奈川県鎌倉市岩瀬1-2-3 株式会社
資生堂大船工場内

(72) 発明者 岩堀 武雄

神奈川県鎌倉市岩瀬1-2-3 株式会社
資生堂大船工場内

(74) 代理人 弁理士 浅野 勝美

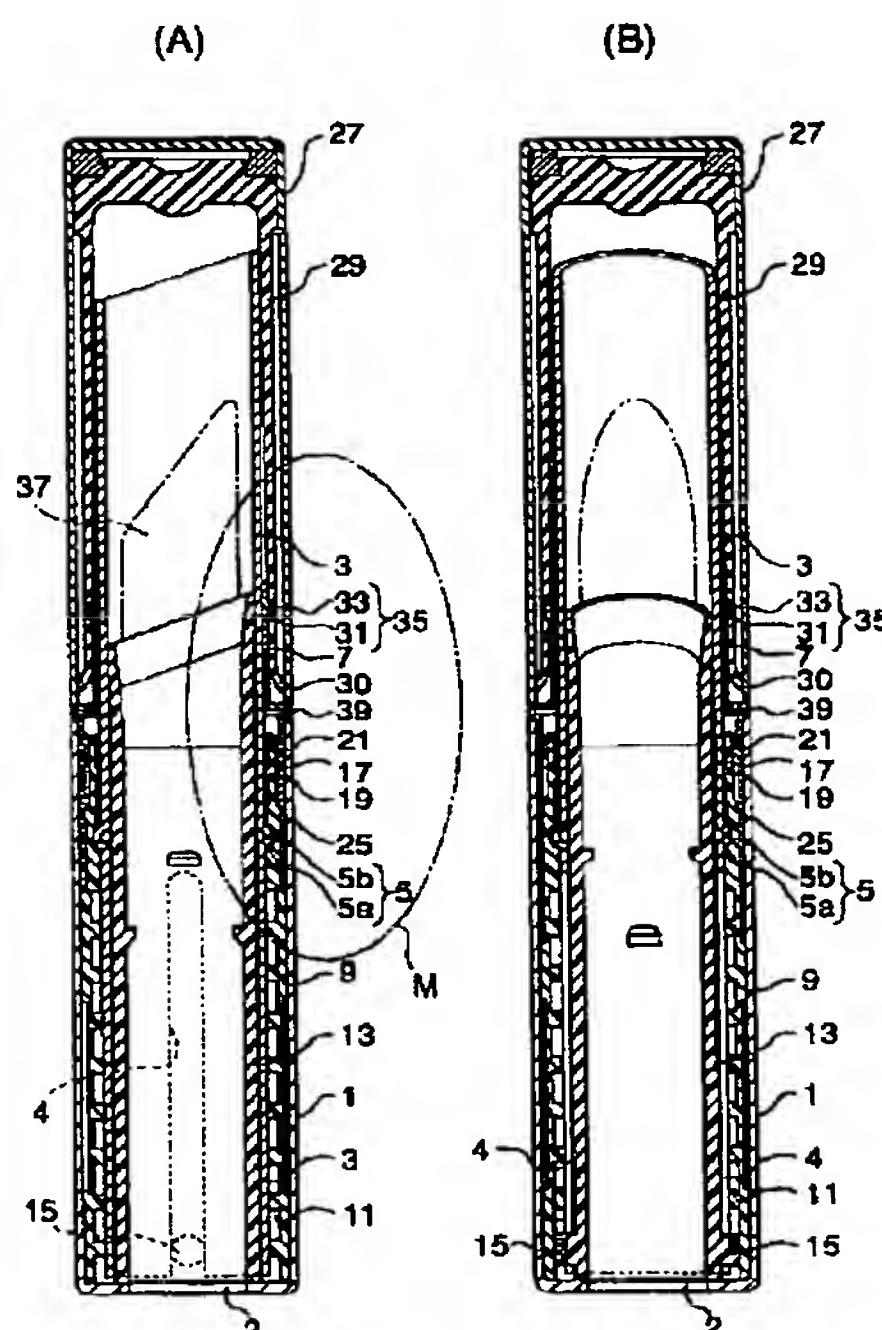
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 充填式棒状化粧品容器

(57) 【要約】

【目的】 本体にストレート管を使用した充填式棒状化粧品容器において、気密性の向上を図るとともに、繰出し・繰入れの良好化安定性を図ること。

【構成】 外筒体9の上部17は、内径が径大に、かつ外形が径小に形成されている。上部17の内周面には環状のリブ19が設けられ、このリブ19が本体3の外周面に接する。上記リブを挟んで、外筒体と中具3とが弾接され、さらにキャップ内に取り付けられるインナーキャップと中具の上部とが着脱可能に気密状態に嵌合される。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 上下開放のストレート状の筒体からなり下部に長手方向に沿って摺動孔を設けた本体と、上下開放の筒体からなり内側に上記本体を摺嵌しつつ内周面に螺旋溝を設けた回動自在の外筒体と、上下開放の筒体からなり下端部に上記摺動孔を介して螺旋溝に摺動自在に係合される突起を有するとともに棒状化粧料を収容・保持する中皿体と、底面に化粧料を充填するために設けた孔を有し上記外筒体を嵌着する袴筒体と、該袴筒体と本体との間に取り付けられる中具と、を具備してなる充填式棒状化粧料容器において、上記外筒体の上部には中具と本体との間に間隙が形成され、外筒体の上記上部の内周面に周方向に沿ってリブが突設され、該リブが本体の外周面に周方向に摺動自在に当接され、上記リブを挟んで外筒体と中具とが弾接され、さらにキャップ内に取り付けられるインナーキャップと中具の上部とが着脱可能に気密状態に嵌合されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 2】 請求項 1 記載の充填式棒状化粧料容器において、上記リブを点状に設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 3】 請求項 1 記載の充填式棒状化粧料容器において、上記リブを線状に設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 4】 請求項 2 又は請求項 3 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部は内径が径大にかつ外径が径小に形成され、上記リブの上方に位置する中具の内周面に突部を設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 5】 請求項 2 又は請求項 3 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上端が中具側に拡開されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 6】 請求項 2 又は請求項 3 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上端部の外周面上に周方向に沿って突部が突設されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 7】 請求項 6 記載の充填式棒状化粧料容器において、上記突部を点状に設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 8】 請求項 6 記載の充填式棒状化粧料容器において、上記突部を線状に設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 9】 請求項 2 乃至 請求項 8 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部が上端より本体との嵌合部の直上まで形成されることを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 10】 請求項 9 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分がストレート状であることを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

10

20

30

40

50

【請求項 11】 請求項 9 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分が外筒体側に屈曲されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 12】 請求項 2 乃至 請求項 8 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部が上端より本体との嵌合部の直下まで形成されることを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 13】 請求項 12 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分がストレート状であることを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 14】 請求項 12 記載の充填式棒状化粧料容器において、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分が外筒体側に屈曲されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 15】 請求項 1 乃至 請求項 14 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、中具の上部の外周面に突部を設け、インナーキャップの内周面に該突部に対応する凹部を設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 16】 請求項 1 乃至 請求項 14 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、インナーキャップの内周面に突部を設け、中具の上部の外周面に該突部に対応する凹部を設けたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 17】 請求項 1 乃至 請求項 16 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、インナーキャップの下端部を外側に拡開したことを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【請求項 18】 請求項 1 乃至 請求項 17 のいずれか一記載の充填式棒状化粧料容器において、袴筒体、本体、中具及びキャップが金属からなり、外筒体、中皿体及びインナーキャップが熱可塑性樹脂からなることを特徴とする充填式棒状化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、例えば、口紅のような棒状化粧料を溶融状態で充填・収容する充填式棒状化粧料容器に係り、とくに本体に比較的小径のストレート管を使用したものの気密機構に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の充填式棒状化粧料容器は、例えば図 1 1 に示すような構造となっている。即ち、平板を絞って筒体とするいわゆる段絞り管では工程数が多いという欠点がある。このため、工程減と、それによる寸法精度の向上、寸法安定性の向上、繰出し・繰入れ感の向上を図るために、本体 101 に引抜き加工をしたストレート管を使用することが考えられる。

【0003】 即ち、従来の容器は、まず袴筒体 100 が

あり、この袴筒体100の内周側には間隔を有した状態で本体101が同軸に配置されていた。該本体101の中央部と袴筒体100との間には、中具103が取り付けられていた。上記袴筒体100と本体101との間には、内周面に螺旋溝107を螺旋状に設けた外筒体105が配置されていた。本体101の内周側には中皿体109が配置されていた。該中皿体109は、下端部に設けた突起111、111が本体101の下部に設けられた摺動孔113、113を通って、螺旋溝107に螺合するようになっていた。かかる中皿体109に棒状化粧料が収容・保持され、袴筒体100を回動することにより繰出し・繰入れをするようになっていた。この場合、外筒体105は本体101に、また中具103は外筒体105及び本体101に夫々べたに嵌合していた。このため、次のような欠点があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】即ち、容器の気密性を大にするため中具103の径を小にすると、中具103と本体101及び外筒体105との間の抵抗が夫々大となり過ぎる。このため、繰出し・繰入れが重くなるという欠点があった。

【0005】また、中具103の径を大にし過ぎると、中具103と本体101及び外筒体105との間の抵抗が夫々小となり過ぎる。このため、繰出し・繰入れが軽くなるという欠点があった。

【0006】このように気密性と繰出し・繰入れは両立が困難である場合が多く、このため従来はストレート管での気密性は一般に困難なものと考えられてきた。とくに、小径のストレート管は化粧料を充填し難いためおさらであった。

【0007】また、従来の容器では、各筒体の径の精度を正確にしなければならないという欠点があり、製品精度のばらつきに有効に対処することができなかつた。

【0008】ところで、例えば、口紅のような棒状化粧料は、最近、落ち難いもの、うるおいのあるもの等が流行している。しかし、かかる化粧料は成分的にみると、揮発性の物質が比較的多いという特徴がある。このため、容器の気密性を良好にしないと、経時変化により化粧料の使用性が劣化するおそれがあった。また容器の気密性を良好にしないと、充填後化粧料が収縮し、「抜け」、(棒状化粧料が収縮の結果中皿体から抜けてしまう現象)、「起き去り」(棒状化粧料が繰出し・繰入れに有効に対応できない現象)、「折れ」(棒状化粧料が収縮の結果折れ易くなったり折れてしまう現象)といったことが多発していた。

【0009】本発明はこのような背景に鑑みてなされたものである。即ち、本発明の目的は、本体にストレート管を使用した充填式棒状化粧料容器において、気密性の向上を図るとともに、繰出し・繰入れの良好化、安定性を図ることである。これにより、揮発性成分の多い化粧

料においても、使用性の良好な状態が比較的長期間持続し、また「抜け」、「起き去り」、「折れ」の発生を防止するのである。

【0010】また、本発明は併せて、本体、外筒体、中具等筒体の製品精度のばらつきに有効に対処することをも目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記目的達成のため、本発明は、上下開放のストレート状の筒体からなり下部に長手方向に沿って摺動孔を設けた本体と、上下開放の筒体からなり内側に上記本体を摺嵌しつ内周面に螺旋溝を設けた回動自在の外筒体と、上下開放の筒体からなり下端部に上記摺動孔を介して螺旋溝に摺動自在に係合される突起を有するとともに棒状化粧料を収容・保持する中皿体と、底面に化粧料を充填するために設けた孔を有し上記外筒体を嵌着する袴筒体と、該袴筒体と本体との間に取り付けられる中具と、を具備してなる充填式棒状化粧料容器において、上記外筒体の上部には中具と本体との間に隙間が形成され、外筒体の上記上部の内周面に周方向に沿ってリブが突設され、該リブが本体の外周面に周方向に摺動自在に当接され、上記リブを挟んで外筒体と中具とが弾接され、さらにキャップ内に取り付けられるインナーキャップと中具の上部とが着脱可能に気密状態に嵌合されたことを特徴とする充填式棒状化粧料容器を供する。この際、上記リブを点状に設けることが考えられる。また、上記リブを線状に設けることが考えられる。また、外筒体の上部は内径が径大にかつ外径が径小に形成され、上記リブの上方に位置する中具の内周面に突部を設けることが考えられる。また、外筒体の上端

30 が中具側に拡開されることが考えられる。また、外筒体の上端部の外周面に周方向に沿って突部が突設されることが考えられる。また、上記突部を点状に設けることが考えられる。また、上記突部を線状に設けることが考えられる。また、外筒体の上部が上端より本体との嵌合部の直上まで形成されることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分がストレート状であることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分が外筒体側に屈曲されることが考えられる。また、外筒体の上部が上端より本体との嵌合部の直下まで形成されることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分がストレート状であることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分が外筒体側に屈曲されることが考えられる。また、中具の上部の外周面に突部を設け、インナーキャップの内周面に該突部に対応する凹部を設けることが考えられる。また、インナーキャップの内周面に突部を設け、中具の上部の外周面に該突部に対応する凹部を設けることが考えられる。また、インナーキャップの下端部を外側に拡開されることが考えられる。また、袴筒体、本体、中具及びキャップが金属からなり、外筒体、中皿体

40 が中具側に拡開されることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分がストレート状であることが考えられる。また、外筒体の上部の下端に位置する中具の部分が外筒体側に屈曲されることが考えられる。また、中具の上部の外周面に突部を設け、インナーキャップの内周面に該突部に対応する凹部を設けることが考えられる。また、インナーキャップの内周面に突部を設け、中具の上部の外周面に該突部に対応する凹部を設けることが考えられる。また、インナーキャップの下端部を外側に拡開されることが考えられる。また、袴筒体、本体、中具及びキャップが金属からなり、外筒体、中皿体

及びインナーキャップが熱可塑性樹脂からなることが考えられる。

【0012】

【作用】外圧がかかった場合、即ち、袴筒体と中具との間の強制嵌合を強くして、中具と本体及び外筒体との間の締め付けを強くした場合の外筒体、中具及び本体の嵌合関係は、次の通りである。

【0013】即ち、リブを支点として中具の突部が外筒体の外周面を押圧し、一方、この押圧と反対方向に、外筒体の上部下端が中具の内周面を押圧する。また、中具の上部はインナーキャップの内周面に押圧される。この結果、容器全体の気密性は大となるのである。

【0014】一方、容器の繰出し・繰入れは、リブを支点として外圧が夫々反対方向に作用するので、中具と本体及び外筒体との間の摩擦抵抗に変化はない。したがって、設定された最適の抵抗度により、繰出し・繰入れをすることができる。

【0015】上記した嵌合関係は、外筒体、中具、本体といった各筒体の径の精度が多少ばら付いても影響を受けない。

【0016】

【実施例】以下、図1及び図2を参照して本発明の第1実施例を説明する。図1のA、Bは互いに直角方向に縦断した図である。便宜上、同一機能の部分には同一の符号を付し、説明を省略した。

【0017】まず、底面中央部に孔2を有していて上端を開放した袴筒体1があり、この袴筒体1の内周側には間隔を有した状態で比較的小径（細身）の本体3が同軸に配置されている。上記本体3は、引き抜き加工などにより上端乃至下端が同径に形成されたストレート管からなり、上下が開放されている。本体3の下部の対称位置には、長手方向に沿って下端まで延長された摺動孔4が設けられている。また、本体3の中央部は突弧状にわん曲5aされ、外筒体9との間に嵌合部5が形成されている。本体3の径は上記突弧状わん曲部以外は同径である。本体3の中央部と上記袴筒体1との間には、上下開放の筒体からなる中具7が取り付けられている。上記袴筒体1と本体3との間には、上下開放の筒体からなる外筒体9が配置されている。該外筒体9は袴筒体1に強制嵌合により嵌着される。外筒体9の内周面には、螺旋溝11が螺旋状に形成されている。該螺旋溝11の上方であって上記突弧状わん曲部5aに対応する外筒体9の内周面には、環状の溝5bが設けられ、本体3との間に嵌合部5を形成している。

【0018】上記本体3の内周側には、上下開放の筒体からなる中皿体13が配置されている。該中皿体13の下端部には、対称位置に一対の突起15、15が突設されており、該一対の突起15、15が上記した摺動孔4を通って螺旋溝11に螺合するようになっている。かかる中皿体13に棒状化粧料37が収容、保持されること

になる。

【0019】上記本体3、中具7及び外筒体9の嵌合関係を図2を参照してさらに詳細に説明する。外筒体9の上部17は、上端より上記嵌合部5の直上まで形成され、内径aが筒体の内径cより径大に、かつ外径bが筒体の外径dより径小に形成されている。かかる上部17と本体3及び中具7との間には隙間Gが形成される。上記上部17の内周面には周方向に沿って線状リブ19が設けられ、このリブ19が本体3の外周面に接する。

10 該リブ19を挟んで上方に位置する中具7の内周面には突部21が突設され、この突部21が外筒体9の外周面に接する。一方、リブ19の下方に位置する上記上部17の下端23は、下端部25がストレートに伸長された中具7の内周面に接する。

【0020】中具7の上部は、キャップ27に固着されたインナーキャップ29と本体3との間に、着脱可能に気密状態となるよう嵌合される。即ち、中具7の上部外周面には、環状にわん曲された突部31が設けられ、これに対応するインナーキャップ29の凹部33に嵌着されて、嵌着部35となっている。インナーキャップ29の下端部30は拡開され、中具7の脱着が容易なようになっている。

【0021】上記構成の充填式棒状化粧料容器に化粧料37を充填させるには、キャップ27を外した状態で図示していない成型用型具を本体3の上端に冠せ、孔2より溶融状態の化粧料を充填する。充填後、袴筒体1の底面の孔2にシールを貼付する。化粧料の固化後、上記成型用型具を取り外し、キャップ27を嵌合するのである。

30 【0022】なお、袴筒体1、本体3及びキャップ27は例えばアルミニウムのような金属から、中具7は例えば真鍮のような金属から夫々構成されるのが望ましい。また外筒体9は例えばポリアセタール、中皿体13は例えばポリプロピレンフタレート、インナーキャップ29は例えば超低密度ポリエチレンのような熱可塑性樹脂から構成されるのが望ましい。

【0023】図中39は、中具7の中央部に設けられた外突部である。

【0024】以上の構成を基にその作用、効果を図7を参考して説明する。まず、中具7と本体3及び外筒体9との間の嵌合関係は、外圧がかかると図7のAよりBに示すようになる。即ち、中具7に袴筒体1を強く嵌着して中具7の締め付けを強くすると、リブ19を支点として、中具7の突部21が外筒体9の上部17外周面を押圧する。一方、この押圧とは反対方向に、外筒体9の上部下端23が中具7の下端部26の内周面を押圧する。このように樹脂からなる外筒体9の上部17はリブ19を支点としてばねのように作用する。また中具7の上部に設けられた突部31は、インナーキャップ29の凹部33側に押圧されるから、嵌着部35の密着度は一層強

化される。この結果、容器全体の気密性は一層大となるのである。

【0025】このように、外圧の力はリブ19を支点として夫々反対方向に作用するため、中具7と本体3及び外筒体9との間の抵抗力は増大しない。したがって、容器の繰出し・繰入れは設定された最適の条件下で行なうことができるるのである。

【0026】したがって、本体に比較的小径のストレート管を使用した充填式棒状化粧料容器において、気密性の向上を図ることができるとともに、繰出し・繰入れの良好化、安定性を図ることができ、両者の両立が可能となるのである。この結果、揮発性成分の多い化粧料においても、経時変化の度合が小となるので、使用性の良好な状態が比較的長期間持続し、また「抜け」、「置き去り」、「折れ」の発生を防止することができるのである。

【0027】また上記した嵌合関係は、外筒体、中具、本体といった各筒体の径の精度が多少バラ付いても影響を受けないという効果があるのである。

【0028】本発明による充填式棒状化粧料容器は上記した実施例に限定されるものではない。例えば、リブ19は線状に設けてもよいし、点状に設けてもよい。

【0029】本体3、中具7及び外筒体9との嵌合関係において、外筒体9の上部18は、図3に示すように、上端より本体3との嵌合部5の直下まで形成してもよい。

【0030】また、上部17の下端に位置する中具7の下端部26は、図4に示すように屈曲して形成してもよい。

【0031】また、中具7と外筒体9との嵌合において、中具7の突部21に代えて、外筒体9の上端10を中具7側に拡張し、中具7の内周面に接することとしても(図5)、同図Bに示す如く第1実施例と同様の作用、効果がある。

【0032】同様に、中具7の突部21に代えて、外筒体9の上端部の外周面に周方向に沿って突部22を設け、中具7の内周面に接することとしても(図6)、同図Bに示す如く第1実施例と同様の作用、効果がある。この突部22は点状に設けてもよいし、線状に設けてもよい。

【0033】上記した図3乃至図7に示すように、上部17の下端に位置する中具7の下端部26を屈曲せしめて外筒体9の外周面に接すると、本体3、中具7及び外筒体9との嵌合関係が一層強化されるので、本体3の容器からの抜け強度が一層向上する。

【0034】中具7とインナーキャップ29との嵌合において、インナーキャップ29の内周面側に突部を設け、中具7の上部外周面にこれに対応する凹部を設けることとしてもよい。しかし、上記した図1の図示例の方が中具7とインナーキャップ29との嵌着が一層良好である。

ある。

【0035】さらには、上記した各種变形例を適宜組み合わせることができる。

【0036】また、各部材を構成する金属あるいは樹脂についても、上記した実施例で述べたもの以外に適宜のものを使用することができる。

【0037】中皿体の形状、形態は任意である。例えば、外形が横断面楕円形のもの(図8)、長手方向の外周面の対称位置に上端より下端までリブ13a、13aを突設したもの(図9)、長手方向の外周面の対称位置に突起15の付近より下端までリブ13b、13bを突設したもの(図10)などとしてもよい。なお、図9及び図10においてAは一部切欠縦断面図、Bは横断面図である。

【0038】次に、本体3には、従来タイプのような平板を絞って筒体とするいわゆる段絞り管を使用したものでもよい。しかし、図示例のように引抜き加工をしたストレート管から本体3を構成するのが望ましい。これは、容器全体を細身にできること、切削加工をする必要がないので加工の安定性が大となること、中皿体を本体に挿入する際段絞りをした部分に中皿体の突起を引掛け損傷するおそれがないこと、オーバーラントルクが大となるのでオーバーランし難いこと、などにより繰出し、繰入れが一層良好となるからである。したがって、本発明の効果はとくに本体3にストレート管を使用する場合に顕著に発揮される。

【0039】

【発明の効果】このように、本発明にかかる充填式棒状化粧料容器によれば、気密性の向上と、繰出し・繰入れの良好化、安定性を図ることができ、両者の両立が可能となる効果がある。この結果、揮発性成分の多い化粧料においても、使用性の良好な状態が比較的長期間持続し、また、「抜け」、「置き去り」、「折れ」の発生を防止することができるのである。さらに、上記した嵌合関係は、外筒体、中具、本体といった各筒体の径の精度が多少バラ付いても影響を受けないという効果があるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による充填式棒状化粧料容器の実施例を示す断面図である。

【図2】図1のM部拡大図である。

【図3】本発明による充填式棒状化粧料容器の他の実施例を示す要部断面図である。

【図4】本発明による充填式棒状化粧料容器の他の実施例を示す要部断面図である。

【図5】本発明による充填式棒状化粧料容器の他の実施例を示す要部断面図である。

【図6】本発明による充填式棒状化粧料容器の他の実施例を示す要部断面図である。

【図7】本発明による充填式棒状化粧料容器の他の実施

例を示す要部断面図である。

【図8】本発明にかかる中皿体の他の例を示す横断面図である。

【図9】本発明にかかる中皿体の他の例を示す図である。

【図10】本発明にかかる中皿体の他の例を示す図である。

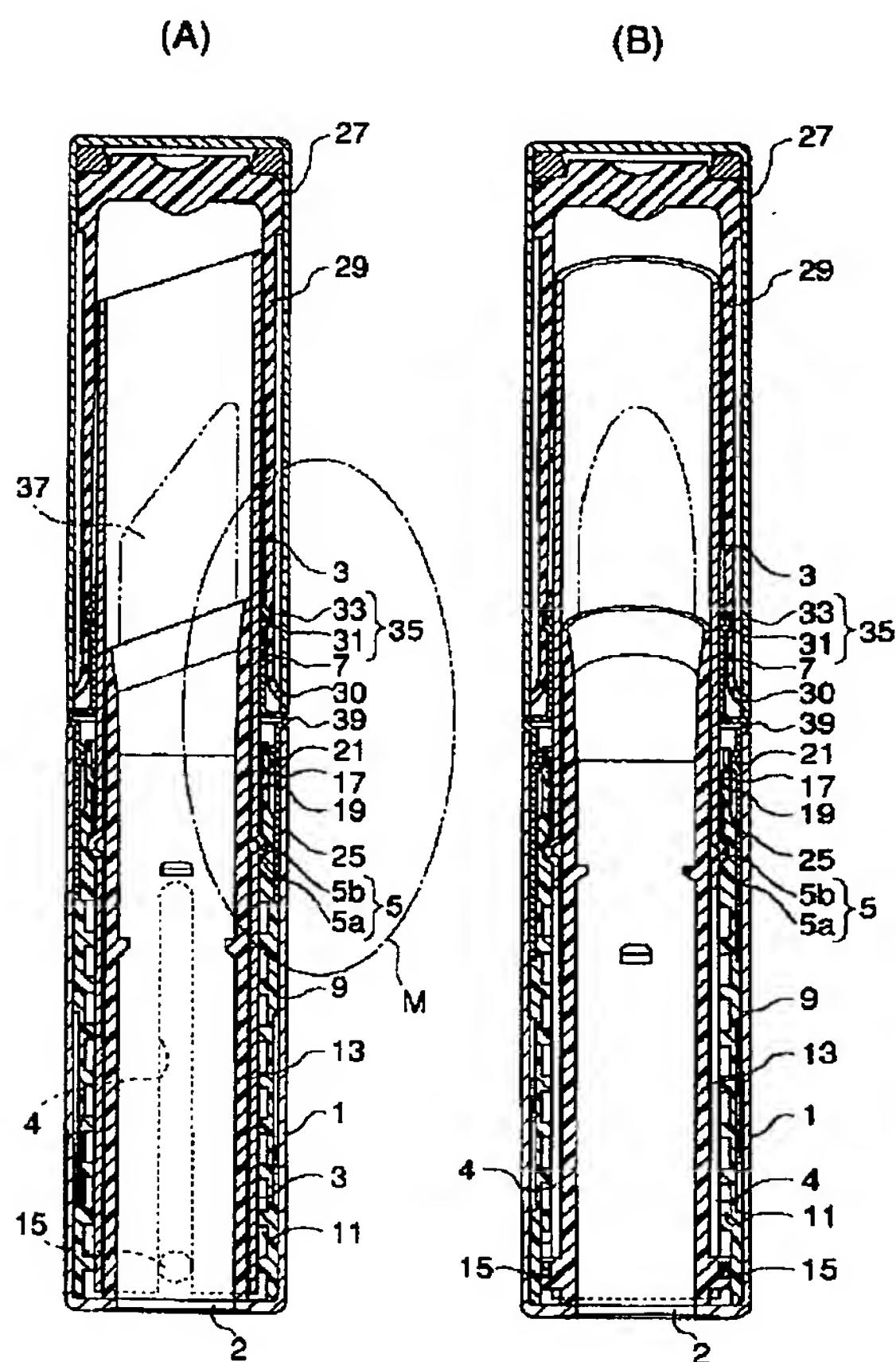
【図11】従来例による充填式棒状化粧料容器を示す断面図である。

【符合の説明】

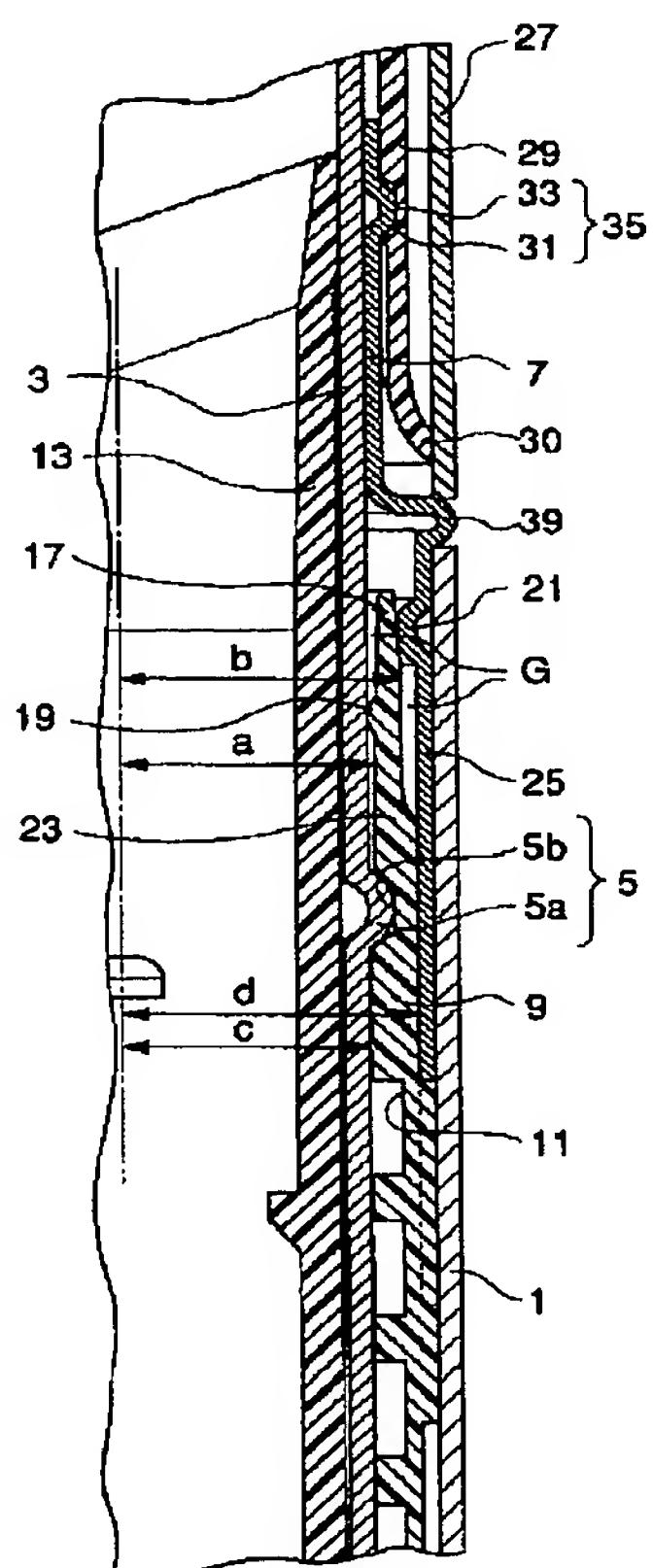
- 1 袋筒体
- 2 孔
- 3 本体
- 4 摺動孔
- 5 嵌合部
- 7 中具
- 9 外筒体
- 10 外筒体上端
- 11 螺旋溝

- * 13 中皿体
- 13 a リブ(中皿体の)
- 13 b リブ(中皿体の)
- 15 突起
- 17 上部
- 18 上部
- 19 リブ
- 21 突部
- 22 突部
- 10 23 上部下端
- 25 中具下端部
- 27 キャップ
- 29 インナーキャップ
- 30 インナーキャップ下端部
- 31 突部
- 33 凹部
- 35 嵌着部
- 37 棒状化粧料
- * 39 外突部

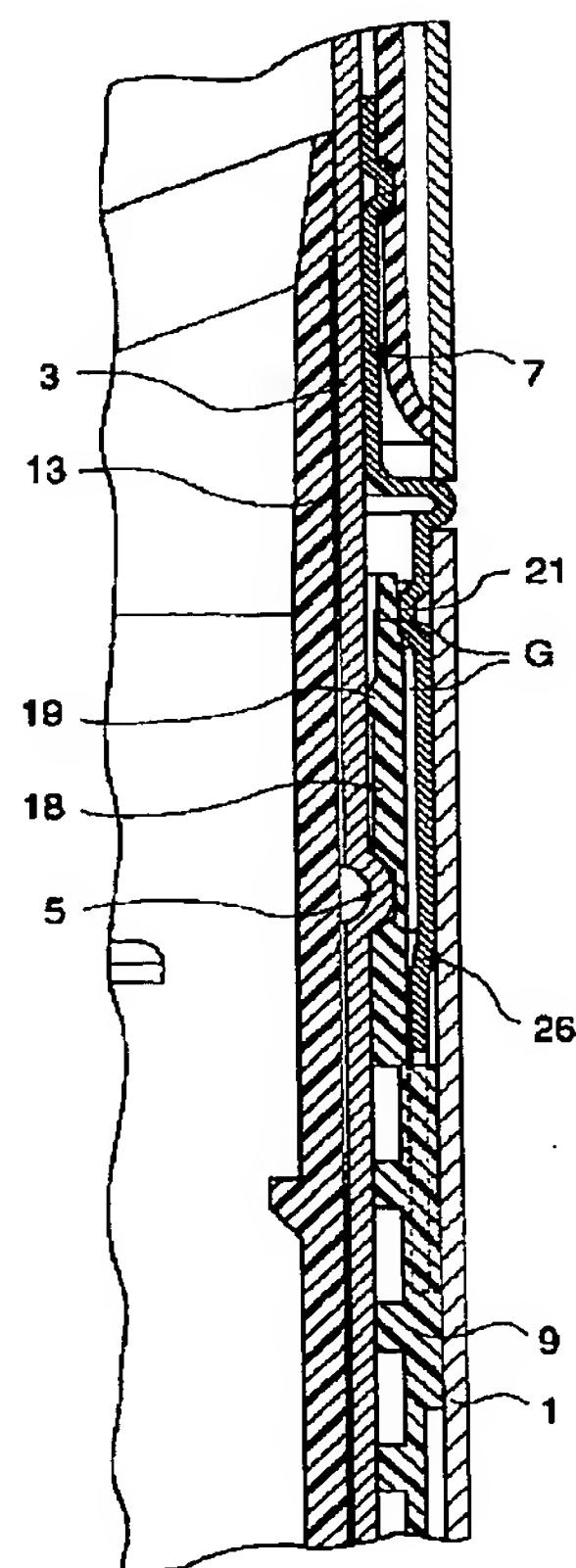
【図1】



【図2】



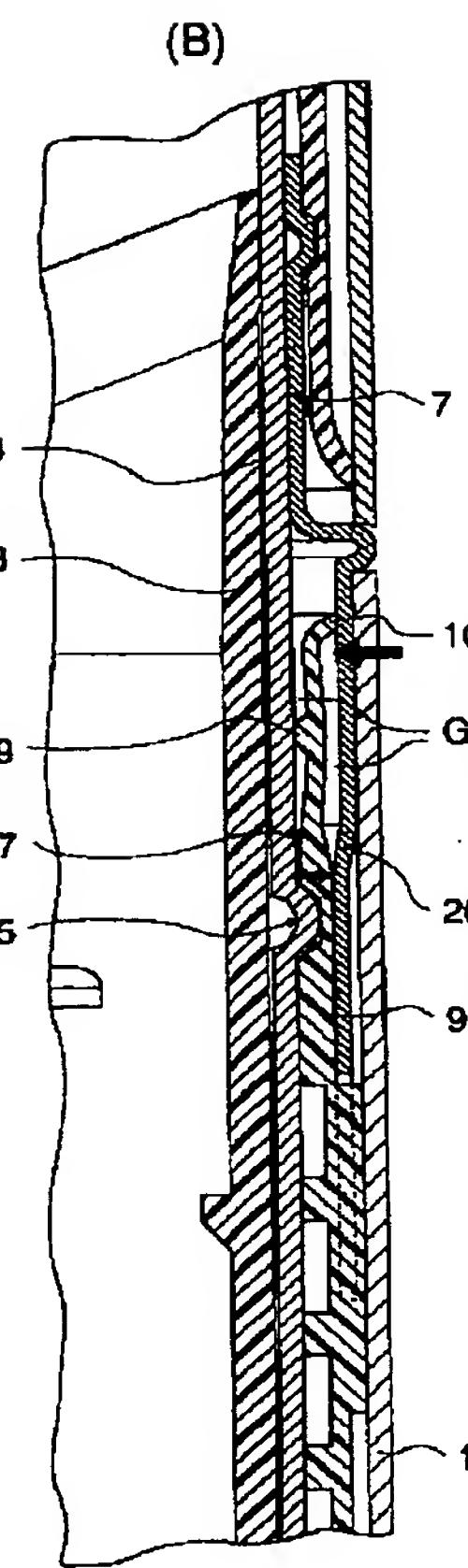
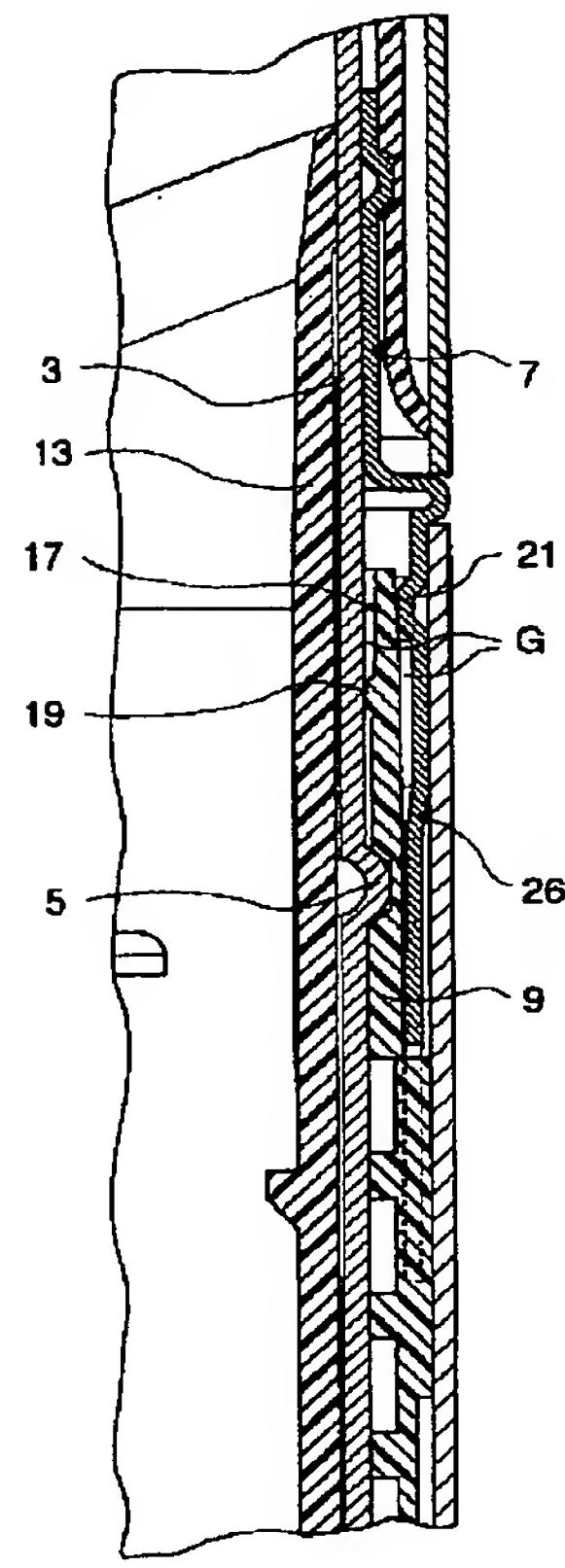
【図3】



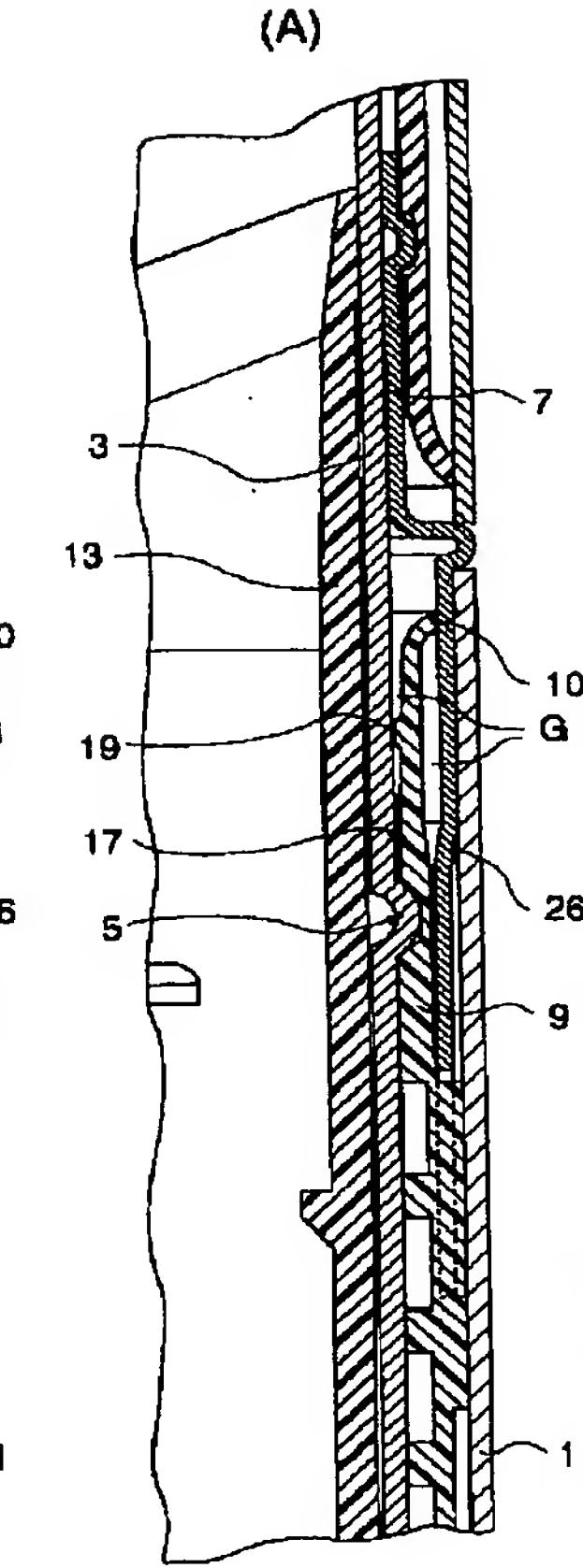
(7)

特開平 8-19421

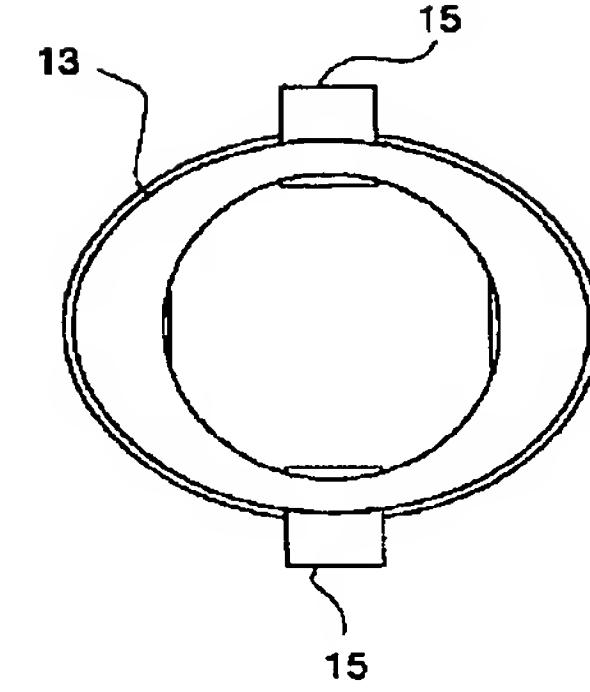
【図4】



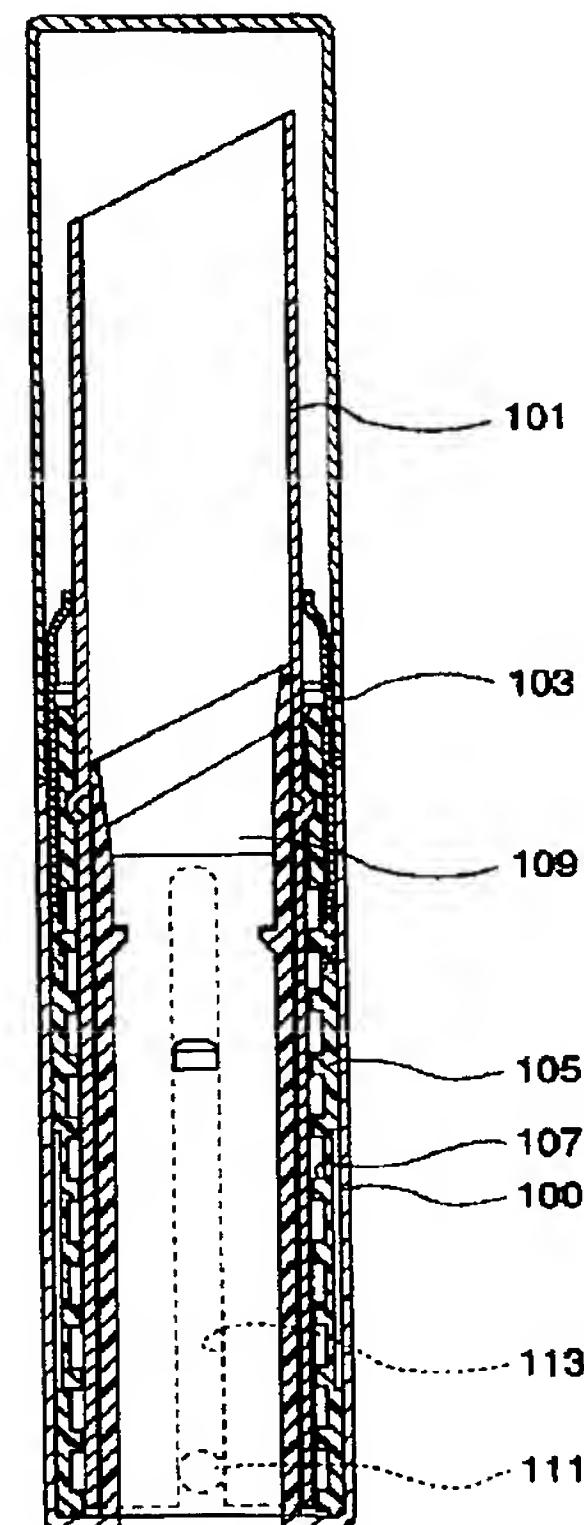
【図5】



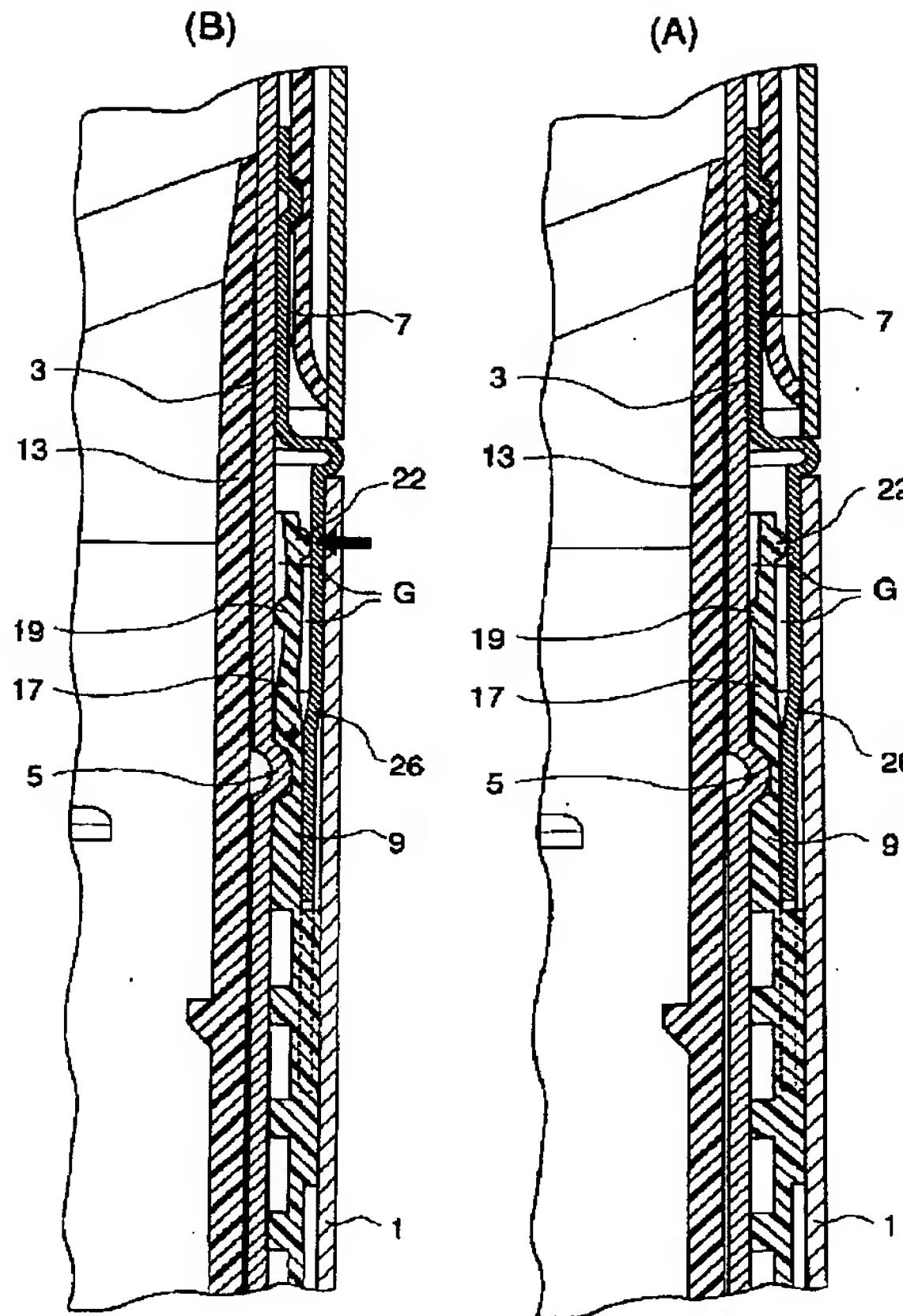
【図8】



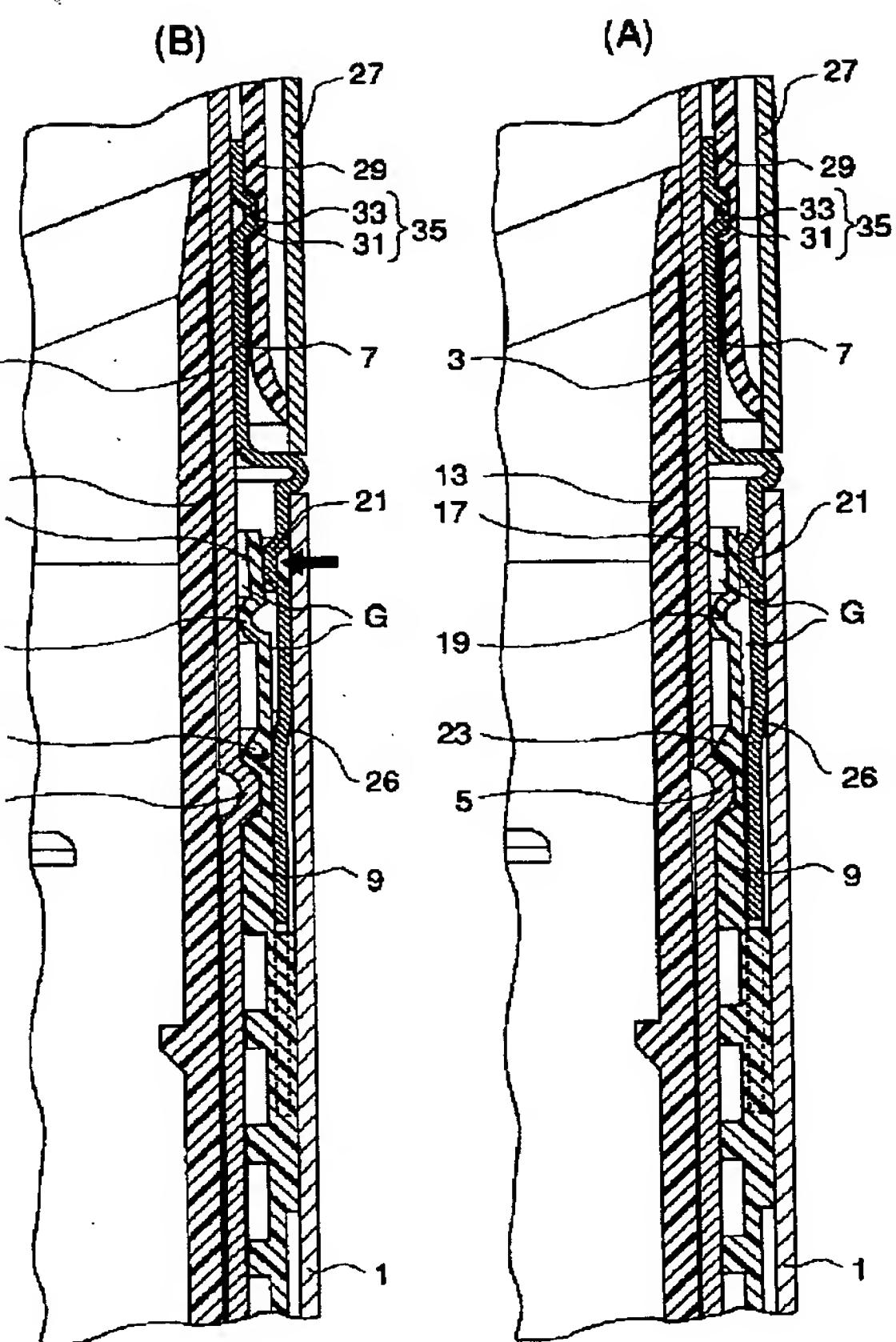
【図11】



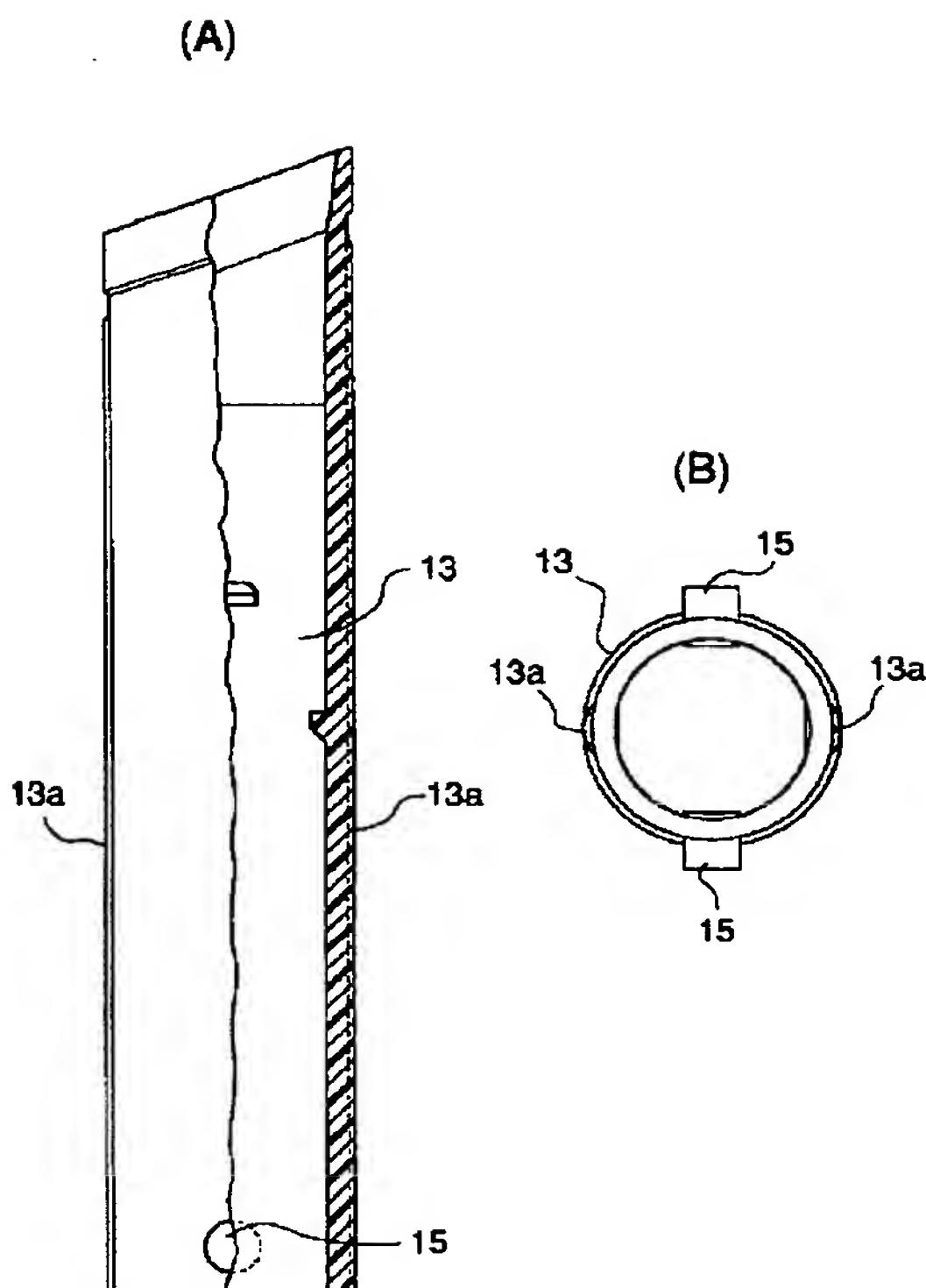
【図6】



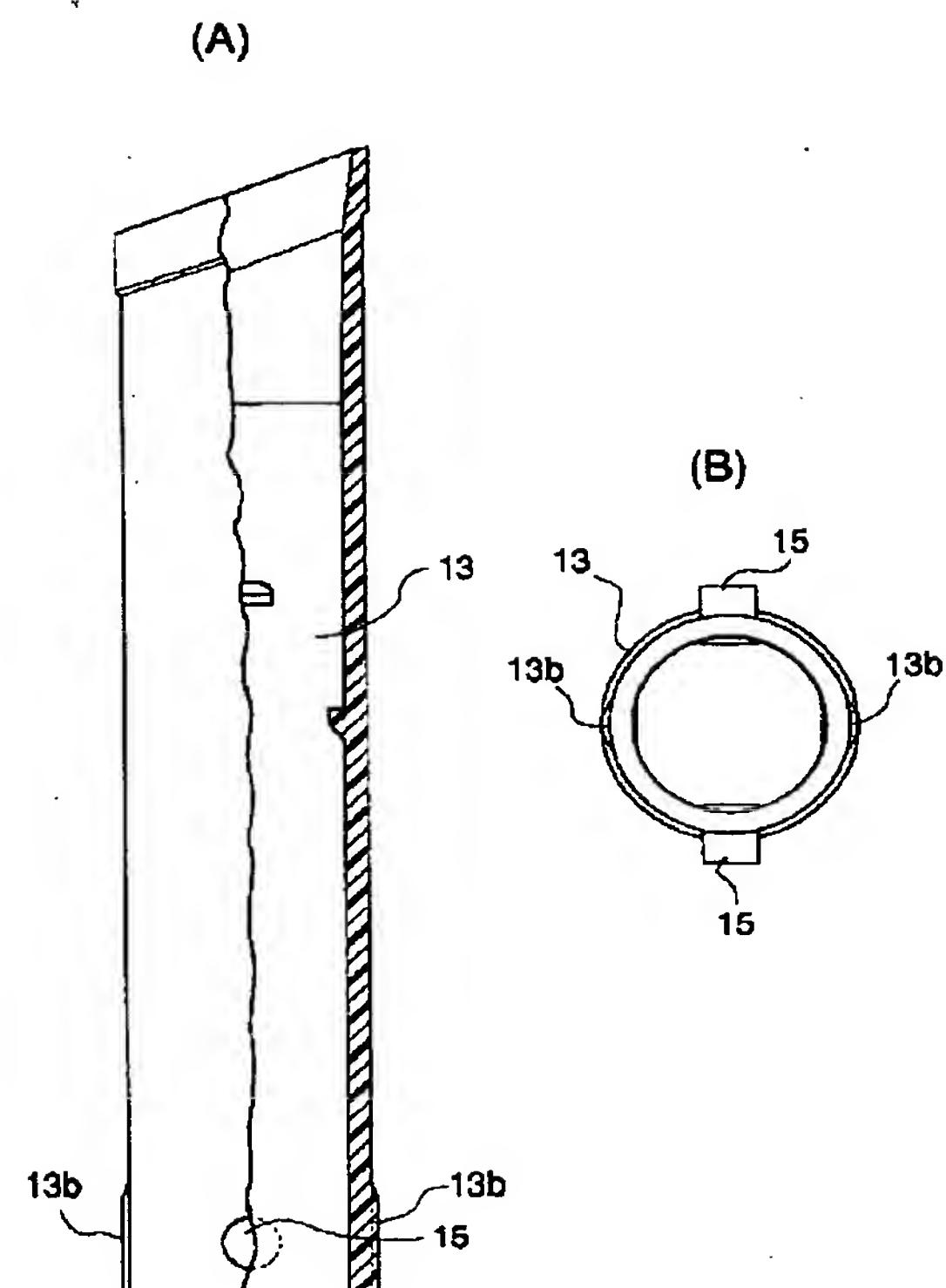
【図7】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 伊藤 健一
千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダ
ン内